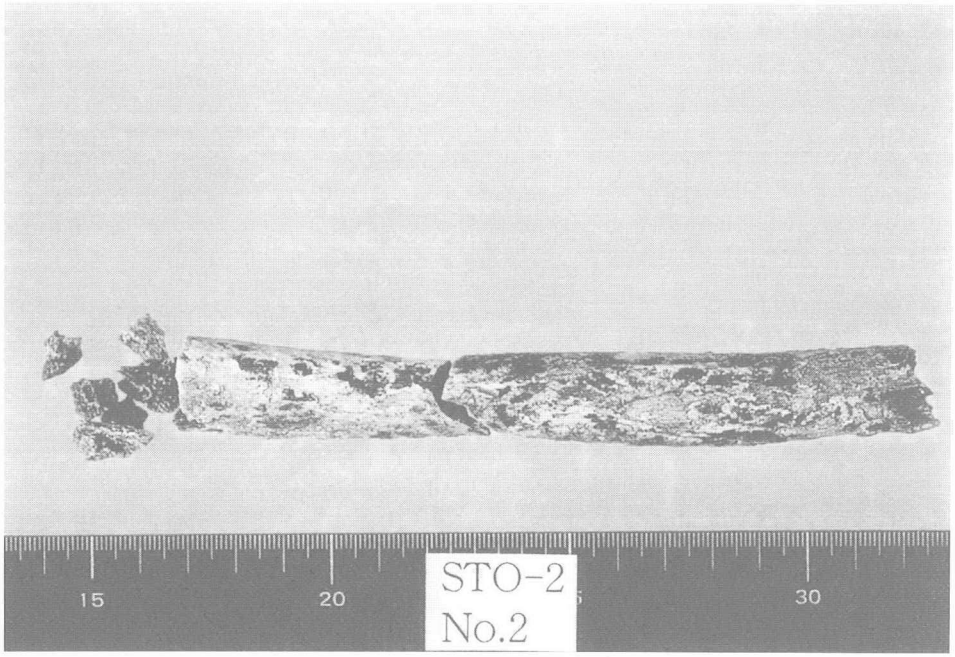


写真27　上腕骨と思われる骨

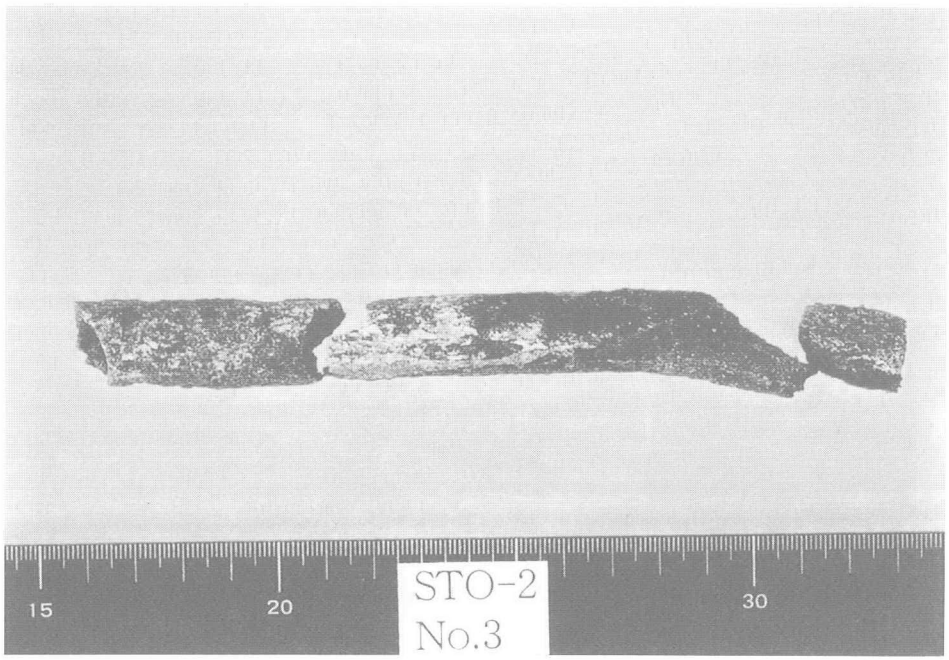


写真28　上腕骨の思われる骨

写真29　大腿骨と思われる骨

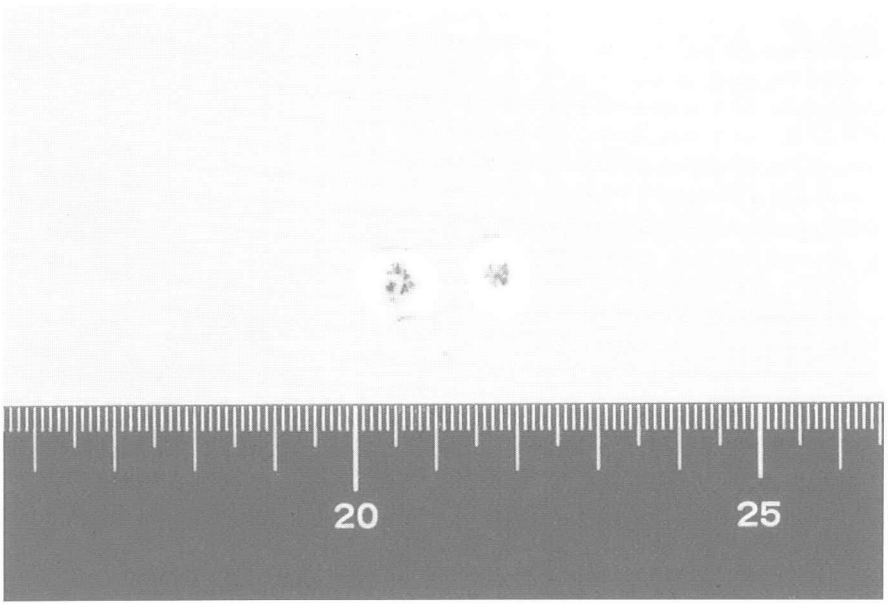


写真30　STO-2に残存する歯牙の状態

第6章　まとめ

今回の報告では、一般国道32号綾歌バイパス建設に伴う調査のうち、丸亀市綾歌町東部の遺跡の報告を行ったので、池下遺跡の約300m西側に位置する佐古川・窪田遺跡も含め、これらの地域の様相を概観して全体のまとめとしたい。

1．地理的な環境

調査地は丸亀市綾歌町栗熊を中心とする地域で、東は綾川の氾濫原が迫り、南は高見峰に連なる丘陵から派生する尾根が、北は横山山塊が迫る盆地状の地形である。平地は狭く、現在条里型地割が残されるのは現在の高松琴平電鉄の栗熊駅付近から北側と、綾川の東側に広がる平地部分だけである。渡池はそのような地形を利用して、北側と南側を山塊により、西側と東側を堤防を築造することにより、綾川の氾濫原を利用して水を引いた。渡池堤防部分から旧渡池内部にかけて現地形でも急激に落ち込んでいる。横山の西側には東大束川、さらに約800m西側に中大束川が流れ、狭い平野を形成する。本調査や路線上の予備調査の結果から、東大束川の東に位置する北内遺跡から西へ向けて徐々に標高が下がり、南から延びる丘陵の谷状地形の延長部に相当する、現在の高松琴平電鉄栗熊駅近辺で最も低くなり、そこから西は徐々に標高が高くなって、中大束川の西側に当たる佐古川・窪田遺跡の西半部では微高地を形成する。予備調査の結果から、池下遺跡と佐古川・窪田遺跡の間は低湿地状を呈し、遺構は認められず、本調査は実施していない。

2．歴史的な変遷

①　縄文時代後期

現在の東大束川を挟んで、北内遺跡の西端部と池下遺跡の東部でともに西方向へ流れる旧河道を検出した。特に東大束川の西側にある池下遺跡からはこの時期の土器がまとまって出土した。また、佐古川・窪田遺跡の東部では、縄文土器が混入していた。ここより約200m西側の佐古川遺跡や約1㎞北西の行末西遺跡では縄文時代の集落が見つかっており、付近では縄文時代後期から人が住み始めたと考えられる。

②　弥生時代前期後半～中期初頭

佐古川・窪田遺跡の東半部、丘陵裾部から東側の低地へ下がりかける位置で、周溝墓群が検出された。円形周溝墓・方形周溝墓が混在し、総計40基を検出した。周溝墓群は大きく4つの群に分かれ、同規模の周溝墓からなる群、中心的な周溝墓に付属的な周溝墓が周溝を共有しながら混在する群などがあり、概ね西から東へ緩やかに移るようである。西側の微高地上にはこの時期の土坑が検出されており、集落が付近にあったことが想定されるが、調査した範囲内ではこの時期の明確な集落は見つからなかった。

北内遺跡では佐古川・窪田遺跡の周溝墓群に続く弥生時代中期初頭と考えられる土坑を約10基検出した。大半は廃棄土坑と考えられ、埋土中から多量の土器が出土した。中期初頭の集落の中心はこの付近で営まれたと考えられる。また、この頃土坑群に近接して土壙墓を2基検出した。

この頃北内遺跡の集落の東部と池下遺跡の東部で灌漑用水路と考えられるやや規模の大きな溝跡を検出した。この時期水田開発が行われた様子が窺える。

③　弥生時代中期中頃

北内遺跡ではほぼ同じ場所で弥生時代中期中頃の土坑が8基と井戸跡2基が確認された。中期初頭に引き続き集落が営まれたと考えられる。

④　弥生時代後期

北内遺跡の東部では規模の大きい灌漑用水路と考えられる溝状遺構と、それに付属すると考えられる小規模な溝状遺構が検出された。灌漑用水路は弥生時代中期のものより大規模になっており、より広い範囲を潤していたと考えられる。

池下遺跡ではこの時期は２基の井戸跡が確認できただけで、他に遺構は確認できなかった。佐古川・窪田遺跡では、西側の微高地上で規模の大きい灌漑用水路が掘削されている。この地域一帯の開発が本格化した様子が窺える。

佐古川・窪田遺跡では、疎らながら竪穴住居跡も確認され、居住域でもあったことがわかる。

⑤　古墳時代

佐古川・窪田遺跡において、大規模な灌漑用水路が掘削されている。弥生時代後期のものよりさらに規模を大きくし、さらに広い範囲の水源となったと考えられる。北内・池下遺跡では遺構はほとんど認められなかった。

⑥　12～13世紀

北内・池下および佐古川・窪田遺跡の微高地上に集落が作られ始める。北内遺跡で面積が60㎡程度の、池下遺跡では10～30㎡程度の家屋が作られ、完形の土器が埋納されている溝状遺構が付随することもある。建物の方位は条里型地割に規制され、また、北内遺跡では現在の地割から条里型地割の坪界線と考えられる位置で溝状遺構を検出していることから、この頃までには条里型地割が施工されていたと考えられる。東大東川を挟んで西側に当たる、やや土地の低い池下遺跡でもこの時期から集落が形成される。ここでは集落の南側の空閑地に土壙墓が営まれていた。

⑦　14～16世紀

丘陵裾部にあたる住吉遺跡でピットや溝状遺構、炭焼き遺構を検出した。これらはほぼ真北方向を向き、条里型地割のは方向を異とするが、これは地形に制約されたものと考えられる。

渡池の堤防の下部からは16世紀代の土師質土器足釜が出土した。これは堤防を築造する前の、綾川の氾濫原の堆積土から出土し、渡池の築造がそれ以後であることが判明した。また、渡池堤防下部の状況および渡池地区の予備調査の結果から、綾川の氾濫原が渡池内部まで広く及んでいたことが判明した。

写真図版

写真１　Ⅰ区完掘状況（東から）

写真４　Ⅱ区完掘状況（西から）

写真８　堤防部南半　全景（北から）

写真13　堤防部掘り下げ終了後　全景（北から）

写真16　堤防部北壁（上段）土層断面（南から）

写真17　堤防部北壁（上段）土層断面（南から）

写真18　堤防部北壁（上段）土層断面（南から）

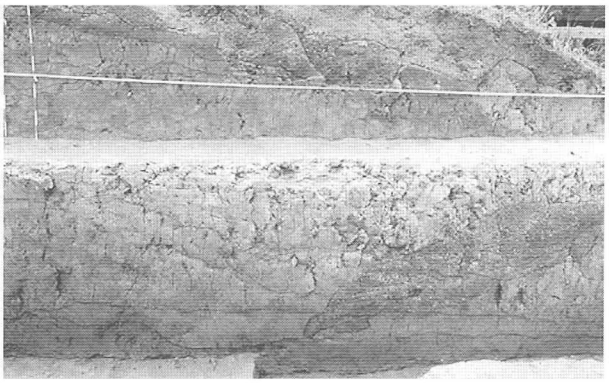


写真21　堤防部北壁（中段）土層断面（南から）

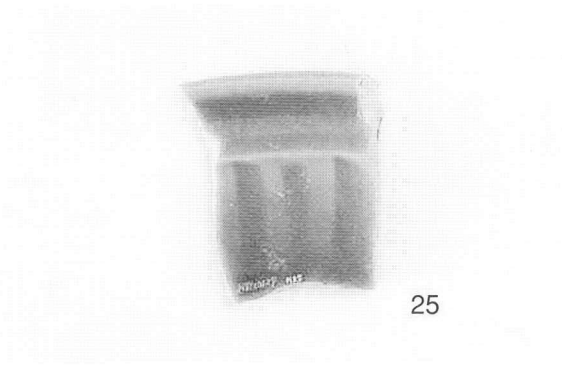


写真25　Ⅱ区SX03

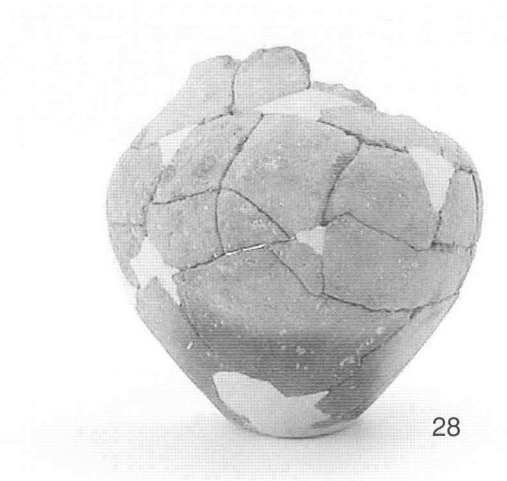


写真26　19トレンチSX03

写真２　Ⅲ区完掘状況（南西から）

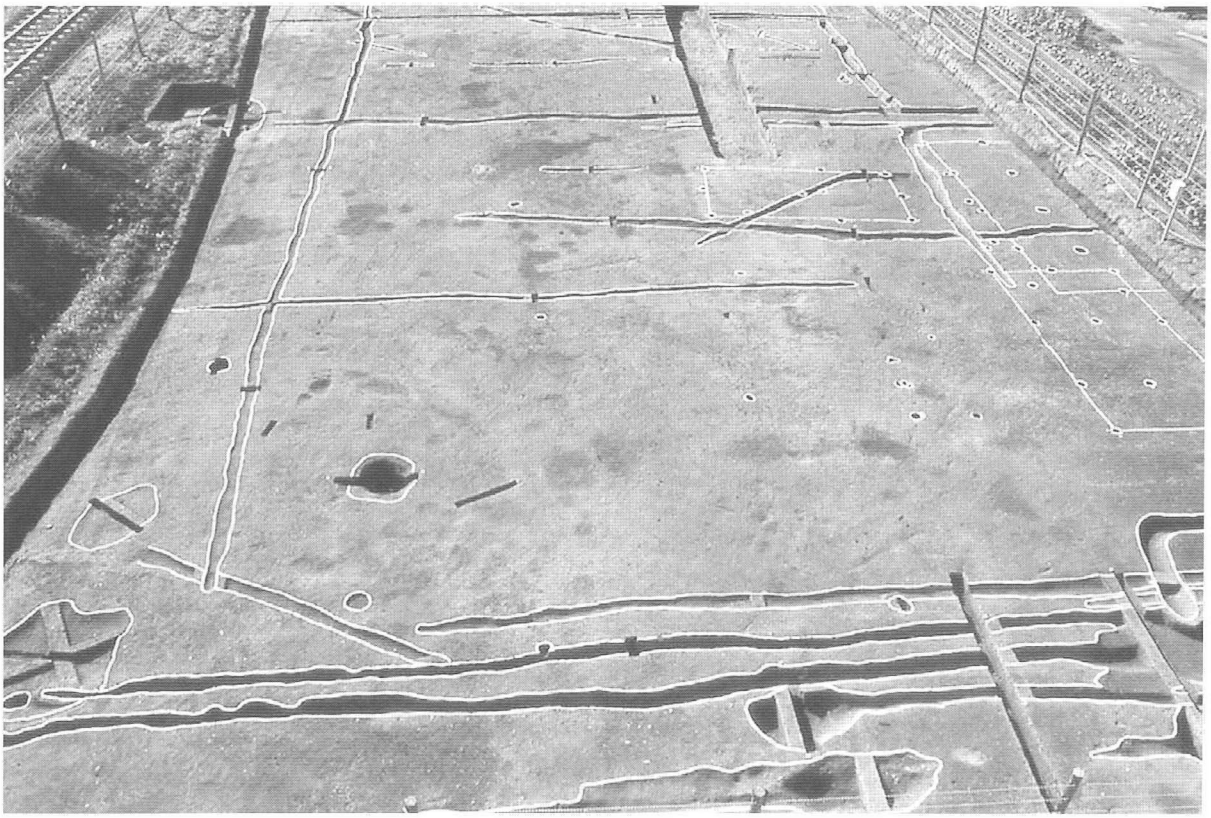


写真４　Ⅳ区全景（東から）

写真８　Ⅰ区西壁土層断面（東から）

写真19　Ⅳ区ST02土層断面（北から）

写真20　Ⅳ区SK12・ST02遺物出土状況（北から）

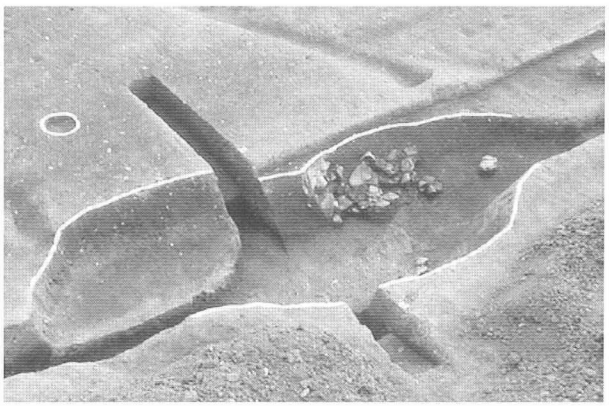


写真23　Ⅲ区SK18完掘状況（北東から）

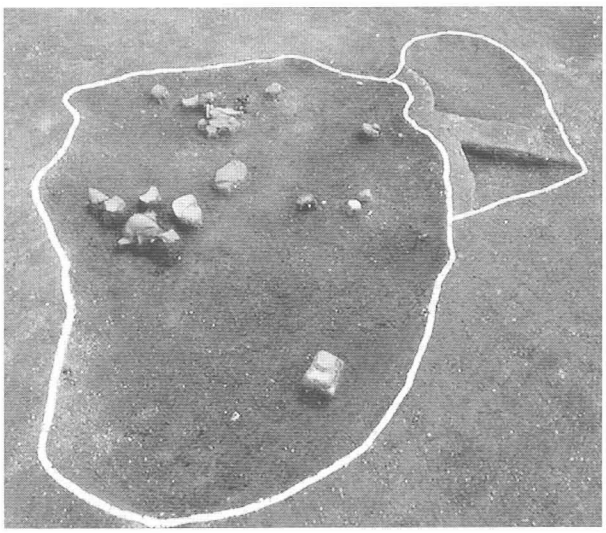


写真26　Ⅲ区SK20遺物出土状況（西から）

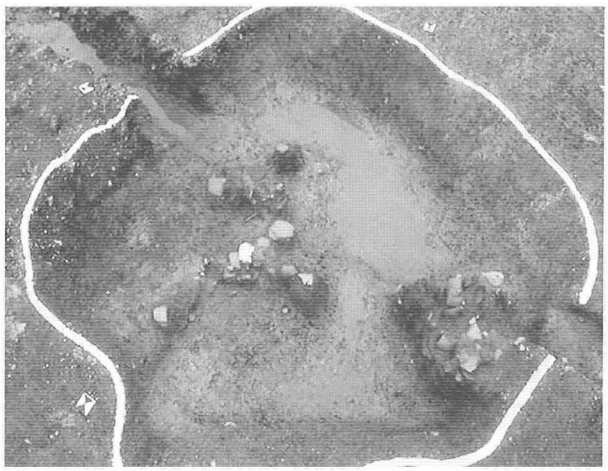


写真30　Ⅲ区SK05遺物出土状況（南西から）

写真32　Ⅲ区SK15遺物出土状況（北から）

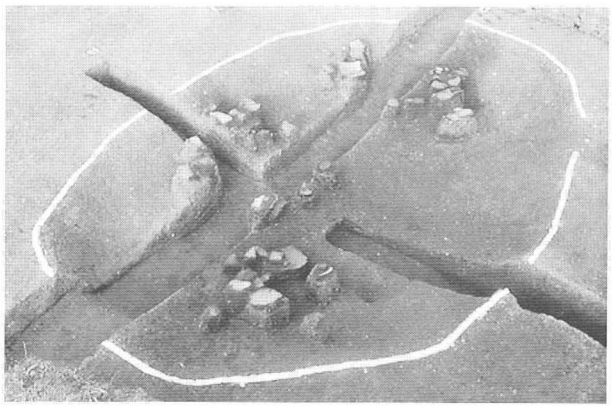


写真36　Ⅳ区SK36遺物出土状況（南西から）

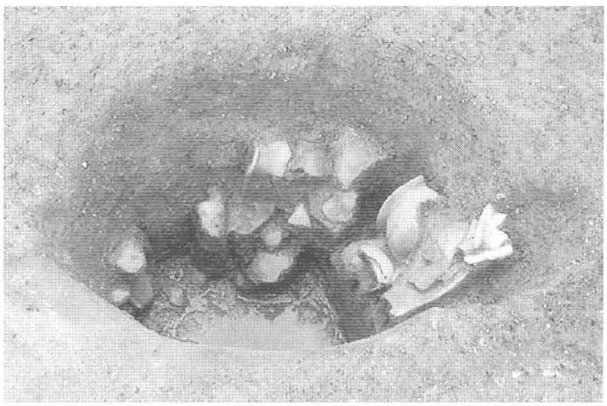


写真42　Ⅳ区SE02遺物出土状況（北から）

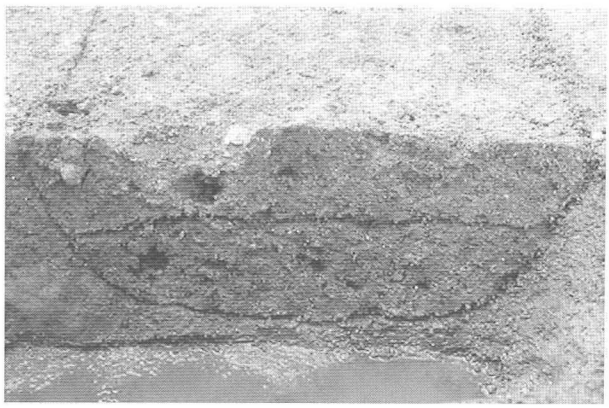


写真43　Ⅲ区ST01土層断面（東から）

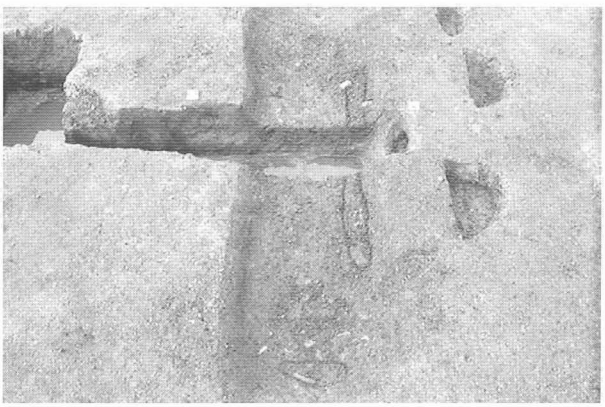


写真47　Ⅲ区ST01棺痕跡検出状況（東から）

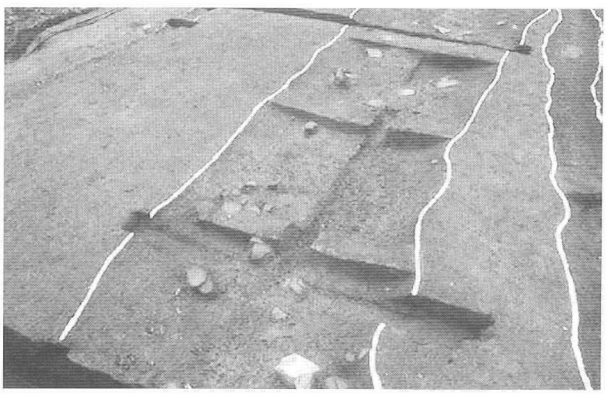


写真56　Ⅲ区SD110上層 遺物出土状況（北から）

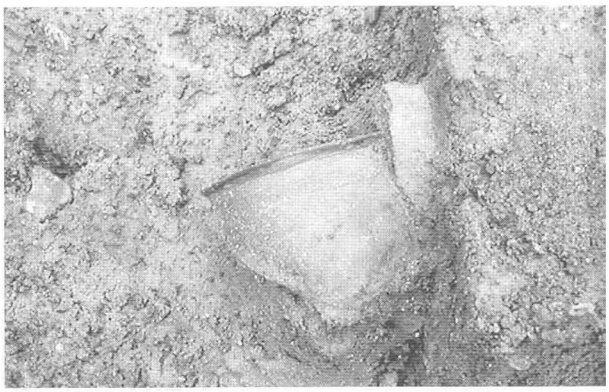


写真57　Ⅲ区SD110上層 遺物出土状況（西から）

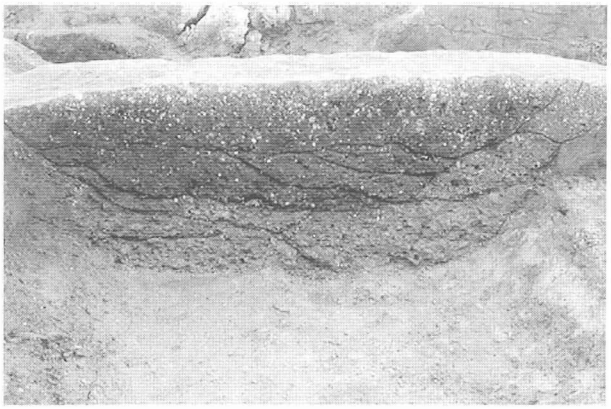


写真64　Ⅰ区SD001a－a' 土層断面（西から）

写真70　Ⅱ区SD011b－b' 土層断面（北から）

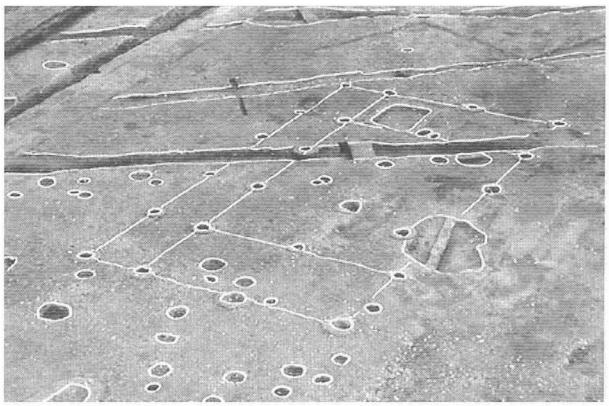


写真78　Ⅲ区SB01完掘状況（南西から）

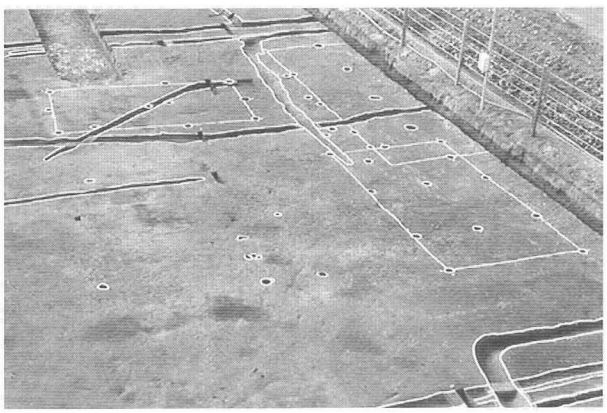


写真80　Ⅳ区SB02・03・04完掘状況（東から）

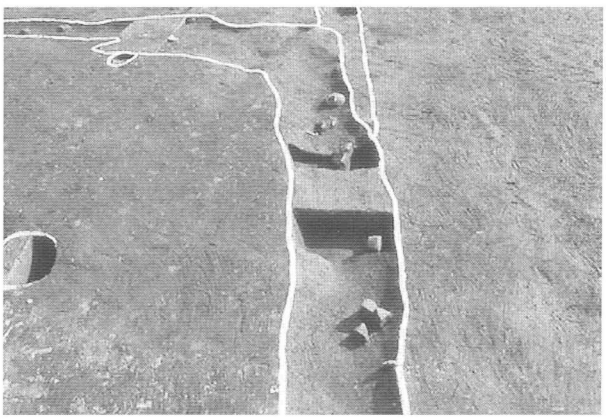


写真84　Ⅳ区SD026西辺部分 遺物出土状況(北から)

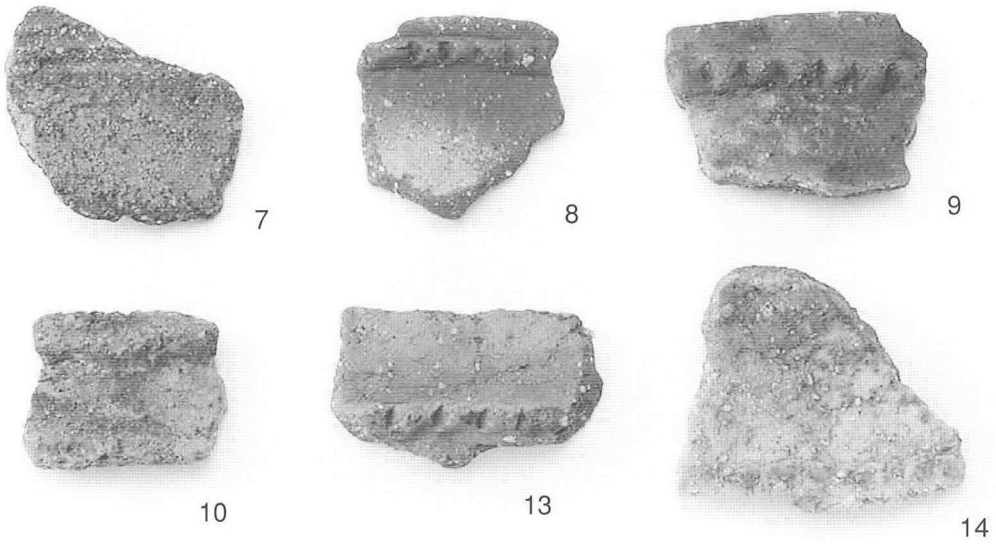


写真116　Ⅴ区SR02上位

写真123　Ⅳ区SK12(3)

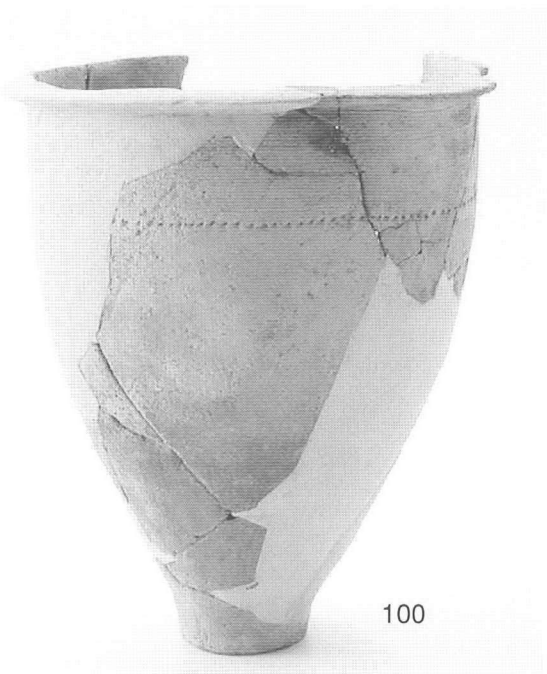
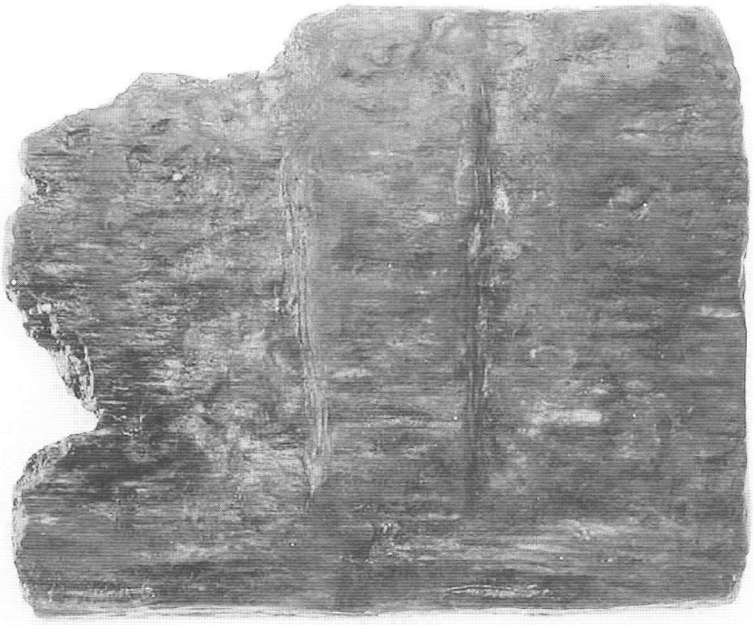
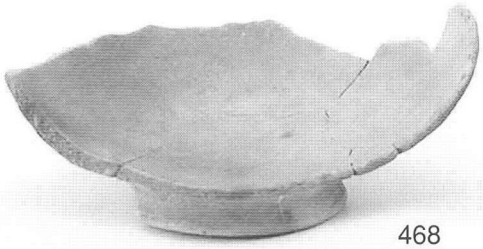


写真124　Ⅲ区SK18(1)



368

写真151　Ⅰ区SD103(4)



468

472

写真159　Ⅳ区SD026

624

写真171　Ⅲ区包含層D7

写真３　Ⅱ区下層完掘（東から）

写真５　Ⅲ区完掘状況（北から）

写真６　Ⅲ区完掘状況（北から）

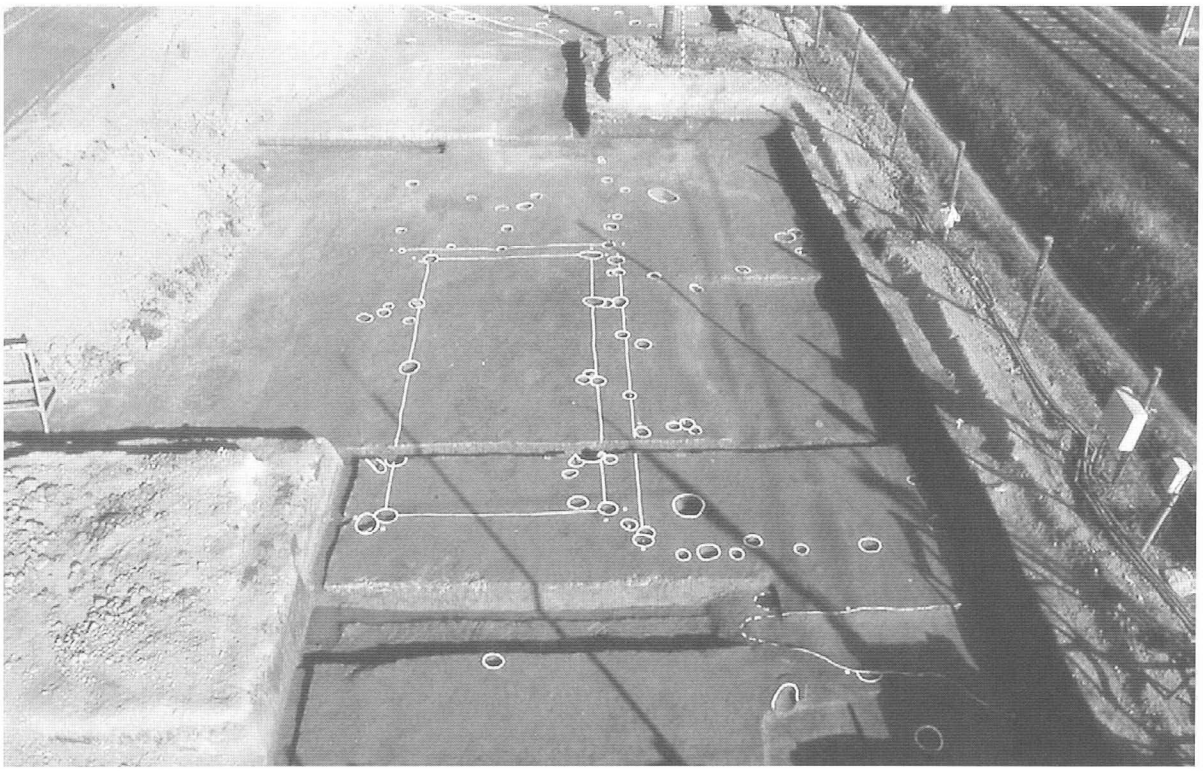


写真８　Ⅳ区西部完掘状況（西から）

写真19　Ⅱ区SD205完掘状況（北東から）

写真36　Ⅱ区SE21土層断面（南から）

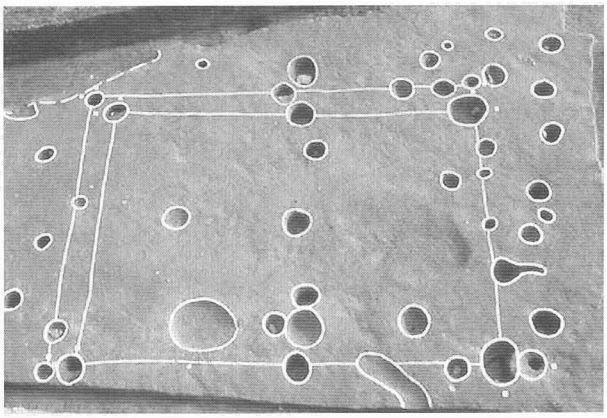


写真40　Ⅲ区SB31（北から）

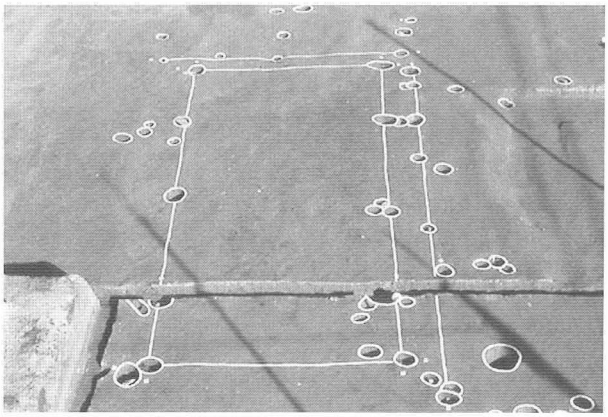


写真43　Ⅳ区SB42完掘状況（西から）

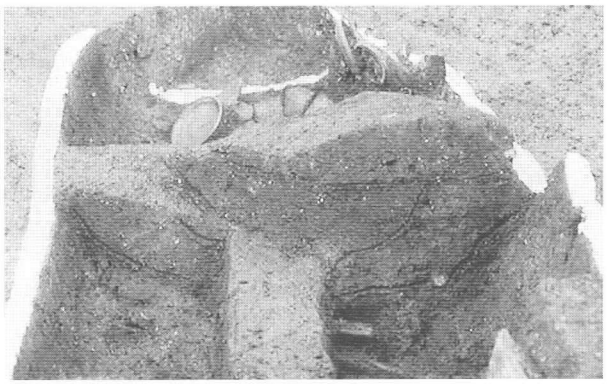


写真52　Ⅲ区ST01土層断面（南から）

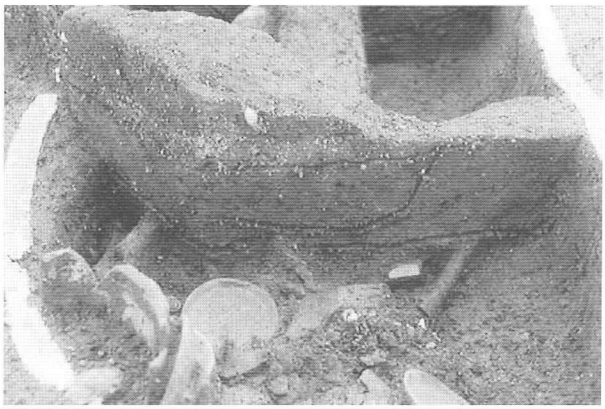


写真54　Ⅲ区ST01土層断面（北から）

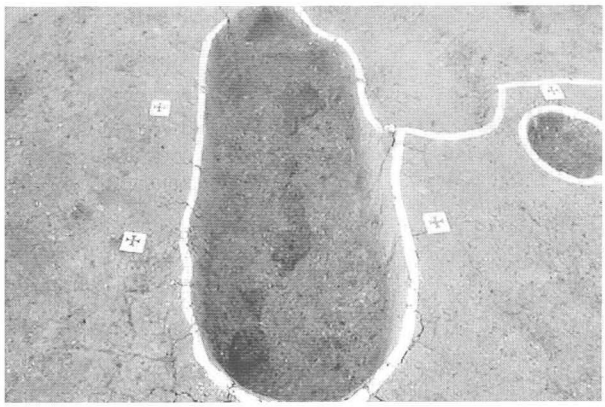


写真58　Ⅲ区ST01底板検出状況

写真56　Ⅲ区ST01人骨出土状況（南から）

写真60　Ⅲ区ST01遺物出土状況（南から）

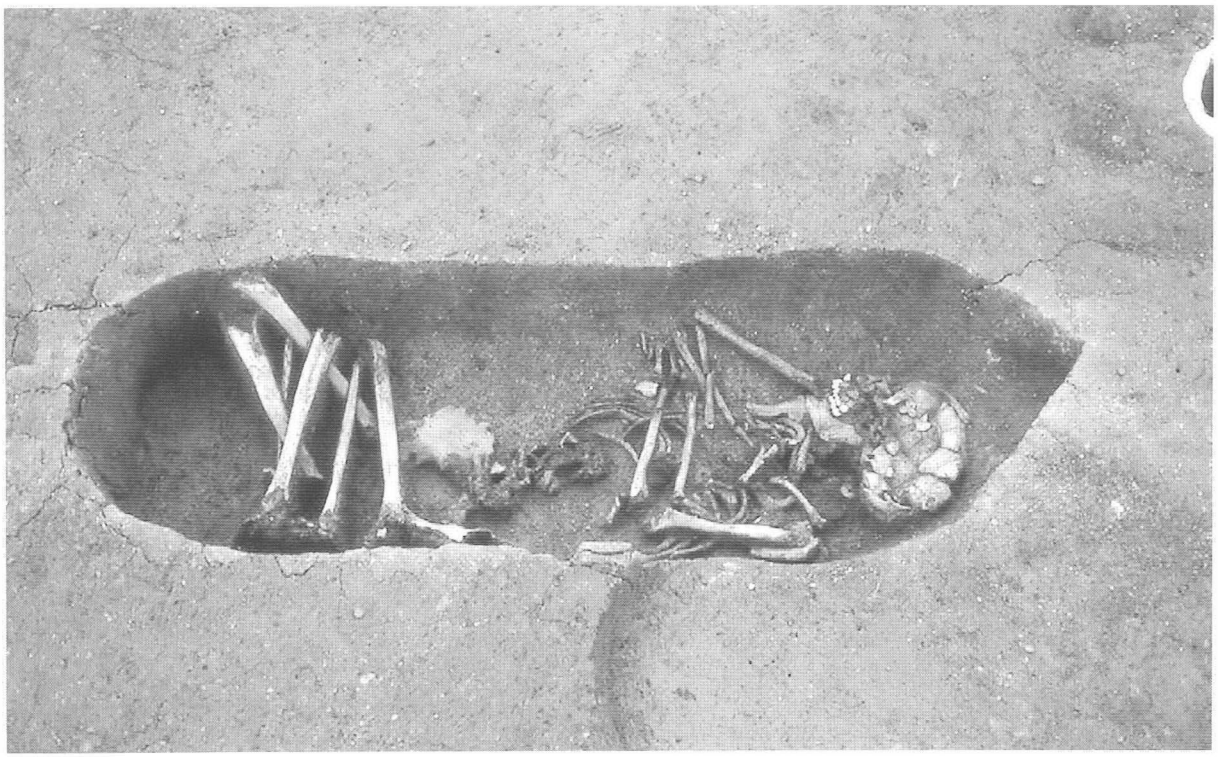


写真62　Ⅲ区ST01人骨・銭出土状況（東から）

写真70　Ⅲ区ST02人骨・遺物出土状況（北から）

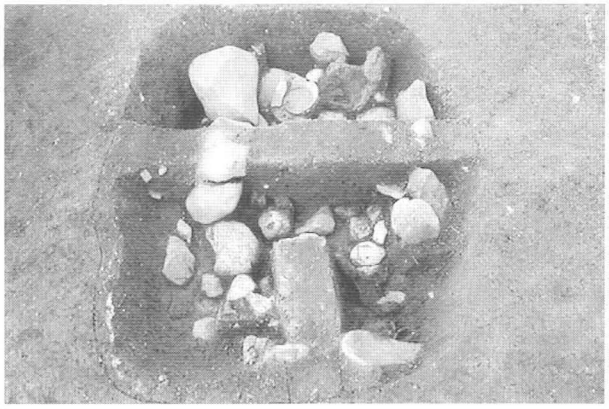


写真66　Ⅲ区ST02土層断面（南から）

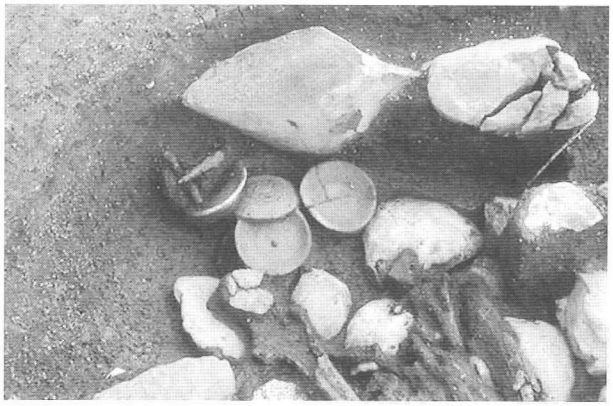


写真74　Ⅲ区ST02遺物出土状況（北から）

写真77　Ⅲ区ST02遺物出土状況（東から）

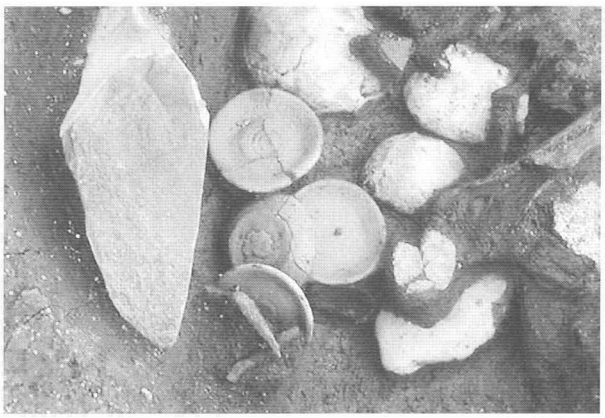


写真78　Ⅲ区ST02遺物出土状況（東から）

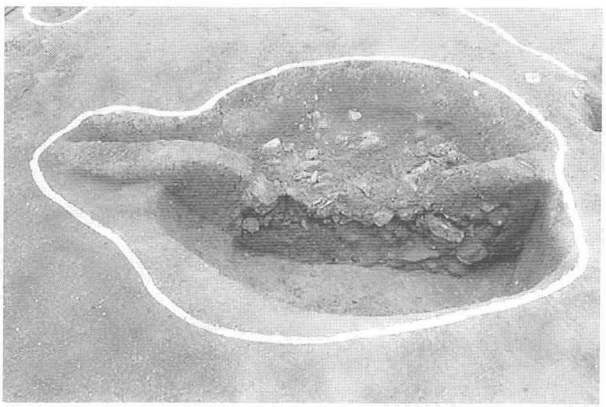


写真91　Ⅱ区SK209土層断面（東から）

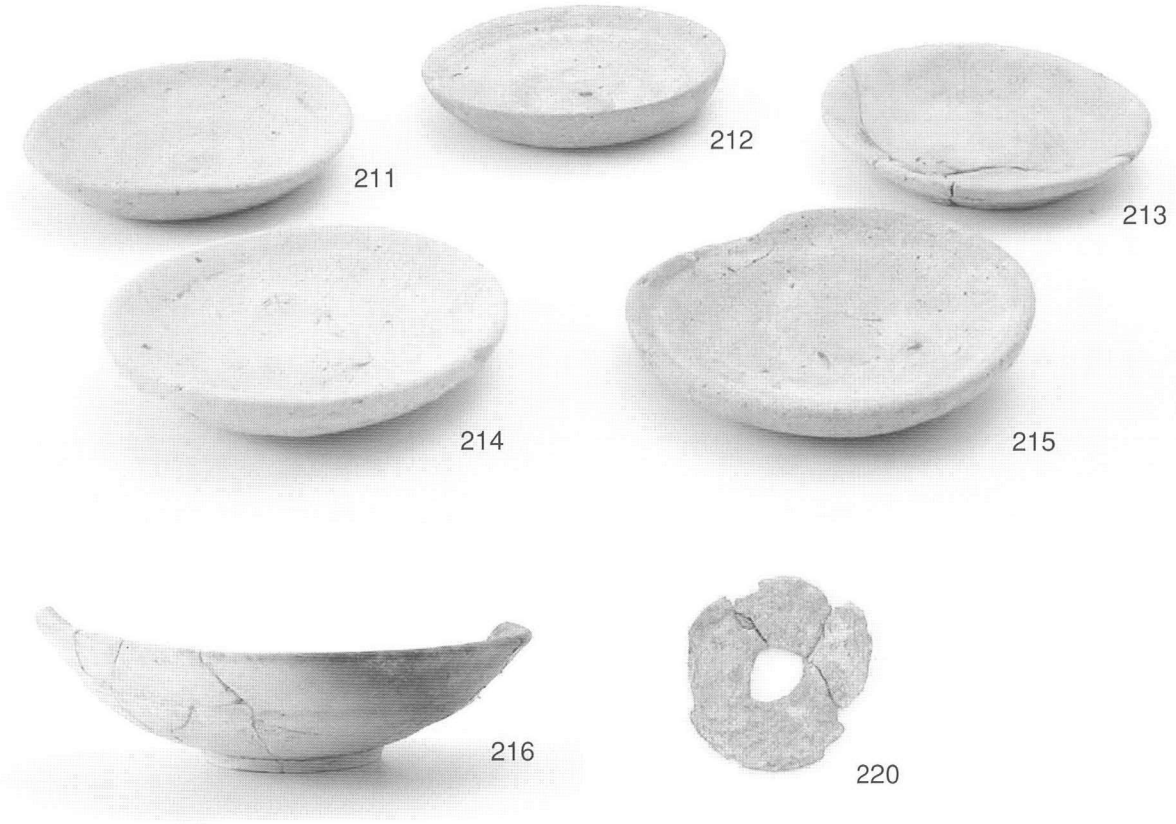


写真121　Ⅲ区ST01(1)

写真123　Ⅲ区ST02(1)

報告書抄録

ふりなが	すみよしいせき　わたりいけあと　きたうちいせき　いけしたいせき
書　　名	住吉遺跡　渡池跡　北内遺跡　池下遺跡
副 書 名	一般国道32号綾歌バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
巻　　次	第２冊
編著者名	山元素子
編集機関	香川県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒762－0024　香川県坂出市府中町字南谷5001－４　　電話　0877－48－2191
発行機関	香川県教育委員会・香川県埋蔵文化財センター
発行年月日	2008（平成20）年２月29日

総頁数	目次等	本　文	表	図　版	挿図枚数	写真枚数	付　図
282	24	242	4	16、CD	202	61	2

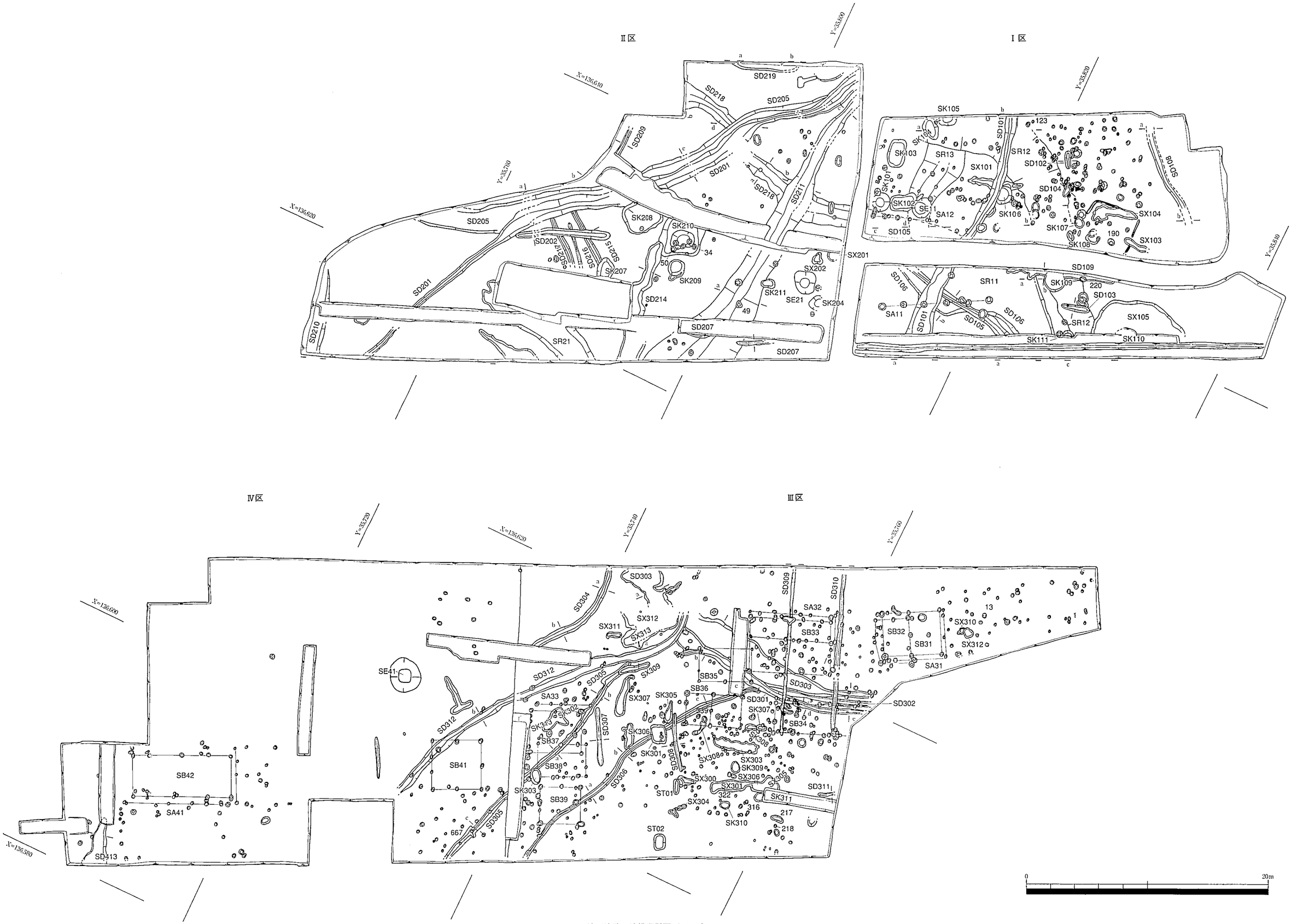
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町	遺跡番号					
住吉遺跡	香川県丸亀市綾歌町栗熊東	37384		34°14′15″	133°54′8″	2000.04.01 ～ 2000.04.30	631	一般国道32号綾歌バイパス建設に伴う
渡池跡	香川県丸亀市綾歌町栗熊東	37384		34°14′15″	133°54′8″	2001.04.01 ～ 2001.06.30	1,500	一般国道32号綾歌バイパス建設に伴う
北内遺跡	香川県丸亀市綾歌町栗熊東	37384		34° 13′ 55″	133° 53′ 23″	1998.07.27 ～ 1999.01.25 1999.04.01 ～ 1999.12.31	6,810	一般国道32号綾歌バイパス建設に伴う
池下遺跡	香川県丸亀市綾歌町栗熊東	37384		34° 13′ 53″	133° 53′ 18″	1999.04.01 ～ 1999.12.31	5,125	一般国道32号綾歌バイパス建設に伴う

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
住吉遺跡	集　落	中　世	掘立柱建物跡　焼成遺構	土師質土器、須恵器、瓦	
渡池跡	溜　池	近　世	溜池堤防	土師質土器	
北内遺跡	集　落	弥生時代中期～後期	溝状遺構、廃棄土坑、土壙墓	弥生土器、サヌカイト製石器	
		中　世	掘立柱建物跡　溝状遺構	土師質土器、須恵器	
池下遺跡	集　落	弥生時代中期～後期	溝状遺構	弥生土器、サヌカイト製石器	
		中　世	溝状遺構、掘立柱建物跡、土壙墓	土師質土器、須恵器、鉄釘、鉄刀	

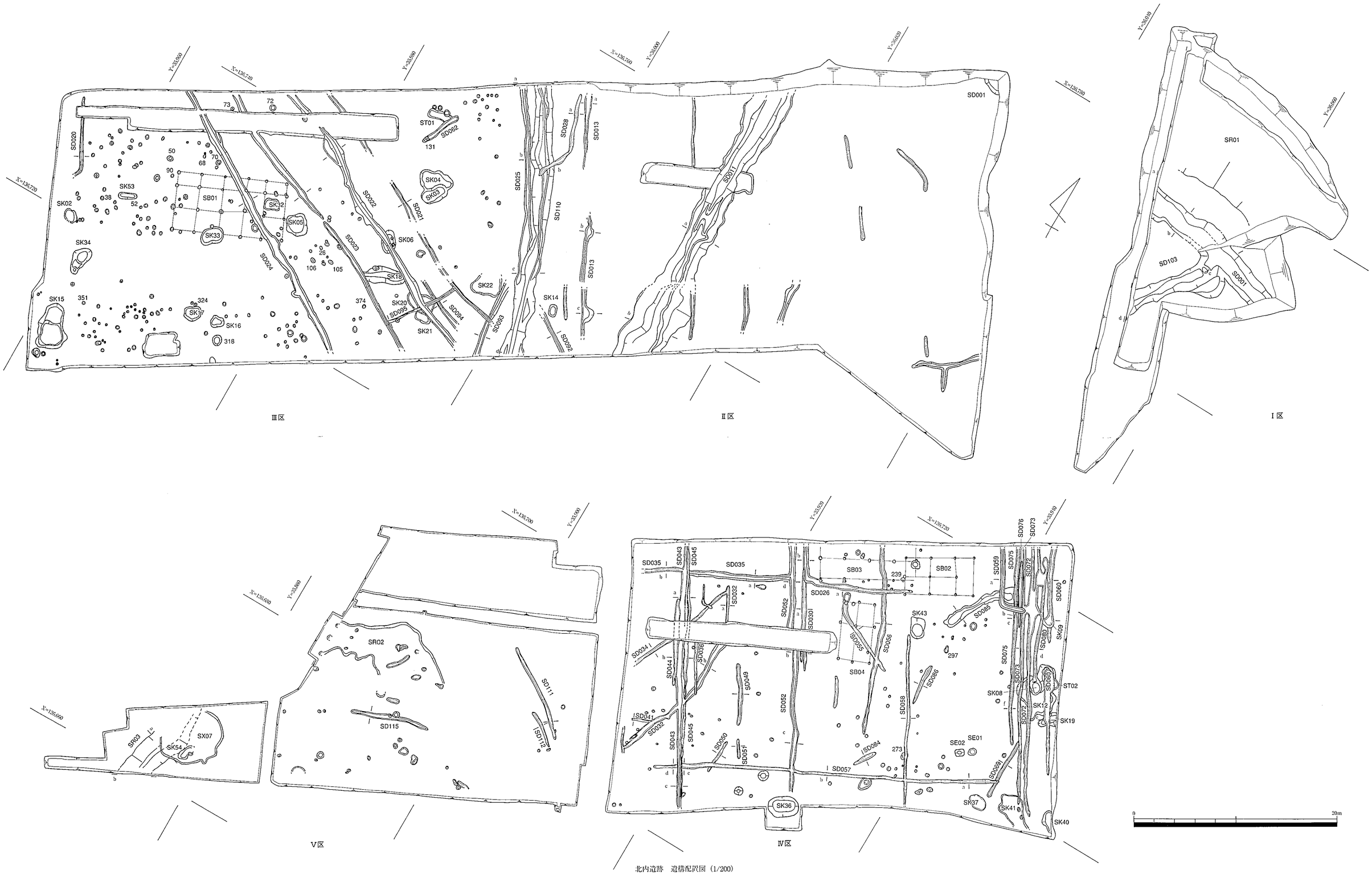
一般国道32号綾歌バイパス建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告
第２冊

住吉遺跡
渡 池 跡
北内遺跡
池下遺跡

平成20年２月29日　発行
編集　香川県埋蔵文化財センター
〒762－0024　香川県坂出市府中町南谷5001-4
電話(0877)-48-2191
発行　香川県教育委員会
国土交通省四国地方整備局
印刷　西尾総合印刷株式会社



池下遺跡　遺構配置図（1/200）



北内遺跡　遺構配置図（1/200）